社会福祉法人創思苑 2021年度 事業報告

2021年度

社会福祉法人創思苑 事業報告 目次

目次

1	はじめに	2
2	創思苑概要	4
3	リスクマネジメント委員会	8
4	情報発信	9
5	当事者活動支援	12
6	部門別報告	14

1.2021年度も、私たちの活動は、コロナに大きく影響を受けました

2021年度末に、当事者、職員や介護者が次々と新型コロナウィルスに感染していきました。 一人感染した人が出ると、あっというまに感染が広がり、対応に追われる日々が続きました。日中 の場は閉めることで感染をストップさせることができますが、グループホームは閉めることができ ません。そんなときにスタッフは快くレッドゾーンの人たちの介護に入ってくれました。自宅待機 を余儀なくされた当事者や保護者の人たちも、がんばって耐えてくれました。みなで力を合わせて 乗り切ることができました。

ところが、外に目を向けると、法人が目指してきた「誰にとっても生きやすい社会を創る」ことから反対の方向に向かっっていると思わざるを得ないことが次々と起こりました。

2. 知的障害を持つ人たちの地域生活は、条件付きなのだろうか?

8月、当事者4人と職員1人の5人で、スーパーに買い物に行った時の出来事です。店に入ろうとしてすれ違った買い物客が、突然「唾をかけられた」とAさんに怒り始めました。Aさんは、息をフーフーと吹く行動はありますが、唾を吐く行動はありません。職員は他の当事者の支援をしていて、Aさんの行動には気づきませんでした。相手の怒りはおさまらず、すぐにPCR検査を受けるよう要求し、警察も呼ぶ事態になりました。

数日後、パンジーのポストに匿名で消印のない手紙が入っていました。そこには障害を持つ人の 店舗利用禁止だけでなく、障害者の社会参加にも否定的な意見が書かれていました。しかも、この 手紙はパンジーだけでなく、東大阪市にも送られていたのです。

早速、この件について東大阪市と当該スーパーとパンジーで話し合いの場を持ちました。パンジーとしては、コロナ禍だからこそ、Aさんが息を吹くような誤解を受けやすい行動をとらなくてもいいように、職員が気を付けるべきだったと反省しました。当該スーパーとは、お互い協力をしながら、障害を持つ人たちなどが安心して利用できる環境を作ることで合意しました。東大阪市には、事業者や市民にこれまで以上の啓発活動を要望しました。

この件については、ひとまず落ち着きました。しかし、私は、知的障害を持つ人たちと地域の人たちの間にある壁の高さを改めて痛感しました。知的障害を持つ人たちが地域で暮らすということは、「知的障害者が地域の人に迷惑をかけないように家族や介護者が前もって防ぐ」という条件付きで認められるものではありません。誰もが安心して暮らすことができる社会にするためには、地域の人たちも知的障害を持つ人たちのことをもっと知って、気軽に声をかけられるようになる必要があります。

3.「私たちのことを私たちぬきで決めないで」

9月、厚生労働省が、通過型のグループホームを作る案を出したことを知りました。10月に私たちは同じ考えを持つ団体とネットワークを結成し、反対の署名を呼びかけました。驚くことに、68,000筆を超える署名が集まりました。

11月に、当事者といっしょに代表団で厚生労働省を訪ね、署名を提出し意見交換をしました。 その時、厚生労働省の担当者から「知的障害者にとって、グループホームで暮らす事の意味を知り ました」「当事者の意見を聞かせてもらったのは貴重な経験でした」などの発言がありました。前 向きな発言ではありましたが、社会の人だけでなく厚生労働省の人たちも、知的障害者のことをあ まり知らないという事実に驚きました。

もっともっと、知的障害当事者の思いを伝えることの、そして、それが実現するために行動する ことの大切さを痛感しました。

そして、グループホームは、知的障害がある人たちにとって、大切な暮らしの場です。

引き続き、知的障害当事者が、地域で自分らしく暮らせるための活動を当事者と一緒にしていき たいと思っています。そして、この活動が、今入所施設に入っている人たちが地域での暮らしを実 現できることに繋がってほしいと思っています。

4, 最後に

しかし、そのような状況の中でも、「元気になること」もありました。

ひとつは、宝塚市の人権を考える市民の集いに、当事者4人と講演に行った時のことです。タイトルは「伝えたい私たちの思い〜地域で自分らしく くらす〜」で、2時間の講演でした。しめくくりのあいさつが終わったとたんに、障害者の保護者、学校の先生、主催者などさまざまな人が、直接感想を伝えに来てくれたのです。当事者と支援者、そしてパンジーメディアの映像を使っての講演が、参加者の心にダイレクトに響いたことを実感してうれしくなりました。5年たって、やっと手ごたえを感じ始めました。

もう一つ、コロナの収束がいつになるか予測がつきません。そのような状況をふまえ、これまで 以上に、心身共に健康な支援をベースにした活動を心がけていきます。

そして、どんな状況になっても、「自分で決める」や「どんなに障害が重くても地域でふつうにくらす」を実現するための活動を、続けていきたいと思います。

(社会福祉法人創思苑 理事長 林 淑美)

2 創思苑 概要

1. 理事会・評議員会

○ 理事会を次の通り開催した。

 2021年度第1回理事会
 2021年5月26日

 2021年度第2回理事会
 2021年6月15日

 2021年度第3回理事会
 2021年9月24日

 2021年度第4回理事会
 2022年3月23日

○評議員会を次の通り開催した。

 2021年度第1回評議員会
 2021年6月15日

 2021年度第2回評議員会
 2022年3月23日

○評議員選任・解任委員会を次の通り開催した。

2021年6月15日

3. 利用者の状況

①日中活動・・・2021年度の開所日は、年間259日だったが、コロナ感染症のため、 各場1週間程度閉所した。

○クリエイティブハウス「パンジー」 生活介護 定員32名

月別平均利用数 (人)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10 月	11月	12 月	1月	2月	3月	合計
32.4	32.2	33.0	31.7	31.0	31.0	31.3	31.5	31.0	31.3	31.3	31.6	31.6

区分別利用者延人数

区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	平均区分	平均利用者数
0	0	127	3,088	4,968	5.48	31.6

○クリエイティブハウス「パンジーⅡ」 生活介護 定員30名

月別平均利用数 (人)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10 月	11月	12 月	1月	2月	3月	合計
34.3	33.5	35	34.1	33.4	33.6	34.0	33.8	33.6	33.3	32.9	32.1	33.6

区分別利用者延人数

区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	平均区分	平均利用者数
0	245	1,377	2,162	4,928	5.25	33.6

○クリエイティブハウス「パンジーⅢ」 生活介護 定員30名

月別平均利用数 (人)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10 月	11月	12 月	1月	2月	3月	合計
30.6	29.6	30.8	29.2	30.6	29.9	29.7	29.6	29.5	29.5	28.6	29.4	29.8

区分別利用者延人数

区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	平均区分	平均利用者数
C	673	2,954	2,333	1,717	4.63	29.8

○クリエイティブハウス「パンジーV」生活介護 定員13名

月別平均利用数 (人)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10 月	11月	12 月	1月	2月	3月	合計
12.1	11.6	11.6	11	11	12	12	12	12	11	11	14	11.9

区分別利用者延人数/生活介護のみ(人)

区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	平均区分	平均利用者数
0	452	531	1,429	665	4.73	11.9

○クリエイティブハウス「パンジーV」就労継続支援B型 定員10名

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10 月	11 月	12 月	1月	2月	3月	合計
2.4	2.0	3.0	2.5	3.4	3.6	3.1	4.0	4.3	4.2	4.3	4.3	3.4

②グループホーム(共同生活介護) 定員81名 24住居

○2021年度利用延べ人数

区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計	平均区分
1,447	1,819	4,471	5,577	10,734	24,048	4.9

○年齢

	~29 歳	30 歳~	40 歳~	50 歳~	60 歳~	70 歳~	80 歳~	平均年齢
人数	3	11	31	19	4	4	1	48.5

4. 職員関係

①職員の採用・退職状況(3月末の数)

	職員数	育休•休職者	入職者	退職者(年間)
2019年度	62	0	9(3)	5
2020年度	58	1	5(1)	6
2021年度	67	1	8(1)	2

※入職者のうち、() は、パンジーV。

※嘱託職員含む

②研修について

1, 内部研修

- ・新人研修 障害者の人権について
- ・愛着障害について
- ・Mさんの件を、現在の障害者虐待防止法の視点と、第三者の立場から考える
- ・障害者虐待防止について
 - ~ グループホームやヘルパー業務に引き付けて一緒に考えてみよう ~
- 食べ物について
- ・食生活と歯
- ・食生活と健康について
- ・障害のある方々の性とその対応について
- ・よりよいグループホーム生活を目指して
- 対大阪府交渉勉強会
- ・創思苑事業計画・理念と運営方針について

2,外部研修

- ・サービス管理責任者更新研修
- · 強度行動障害研修基礎編 · 実践編
- ・はじめての施設長育成塾

③外部会議への参加について

以下の会議に参加し、積極的に情報交換等を行い職員の意識の向上を図った。

- ・ピープルファースト大阪会議
- ピープルファーストジャパン会議
- 東大阪市自立支援協議会
- ·相談支援連絡会

- ・障大連東ブロック会議
- · 東大阪市障害児 · 者施設連絡会
- ・東大阪市事業所連絡会(幹事会・グループホーム部会・短期入所部会)
- 東大阪市共同受注会幹事会

5. 年間行事・運動等について

- コロナ感染予防のため、パンジーまつり、パンジー旅行は中止した。
- 5月:保護者懇談会
- 6月…健康診断
- 7月…対府交渉・デモ行進
- 10月…保護者懇談会
- 11月…インフルエンザ予防接種
- 12月…クリスマス会/健康診断

3 リスクマネジメント委員会報告

1、委員会の開催

5月、7月、9月、11月、3月に開催した。話し合った主なトピックは以下の通り。

- ・愛着障害が見られる方への支援の在り方
- ・新型コロナウィルスへの対応と当事者へのフォロー
- ・送迎車に乗車時のシートベルトの確認について
- ・命に関わる当事者の体調の変化について
- ・外出支援時に発生した買い物客とのトラブルについて
- ・外出支援時での警察要請の対応について
- ・深夜の転倒事故について
- ・服薬ミスの再発防止の徹底について
- ・障害者虐待防止法の改正への対応、身体拘束等適正化の推進のための対応について

2、「事故」「興奮時の緊急対応」「苦情」の年間件数(2021.4~2022.3)

	I	П	Ш	V	GH	居宅	SS	その他	合計
事故(ケガ・急病)	1	2		7	2	1			13
(見失い)	2	3	1		3				9
(誤薬)			1		5	1			7
(誤嚥誤飲)									0
(車両)	2	6	1	4				3	16
(他傷行為)	5	3	2						10
(物損)		1	1	3	1				6
タイムアウト対応									0
頓服対応	3	7	1	1	2	2			16
苦情	1	1	1	2	7				12

【概要】

車両事故が2019年度29件、20年度22件、21年度16件と減少はしているが、依然として件数は多い。一部の送迎を外部の専門業者に委託するなどの対策は進めているが、日中職員による事故も目立つため、事故防止のための事前準備の重要性が増している。

また、新型コロナウィルスの感染状況として、2022年1月までは部分的な発症に留まっていたが、 $2\sim3$ 月にパンジー I、II、III、Vとすべての場所で集団感染が発生し、それぞれ1週間程度の閉所を余儀なくされた。基本的な感染対策では防げなかった事態であり、日常の活動のなかで、どの程度まで対策の強度を上げていくのかが問われることとなった。

4 情報発信

① インターネット放送局「きぼうのつばさ」放送内容

放送	パンジーの眼	私の歴史	パンジーキッチン	ドキュメント	
56	人間としての 尊厳④		ちらしずしに ちょうせん	性のワークショップ② あなたは性について知っていますか?	
4/23	导麻色		りょうせん	セクシュアリティを学ぶ	
57	人間としての	詩でつづる心の風景	世界のスープ①		
5/28	尊厳⑤	田上康夫	石田シェフ直伝 タックッ		
58	入所施設を	ぼくにとって	世界のスープ旅②	性のワークショップ③	
6/25	なくすために	大切な2つのこと	ドイツの家庭の味わい	あなたは恋愛について知っていま	
5 0		伊藤恭介	W.B.o	すか?~人との出会いを学ぶ~	
59	それぞれの	私がとまらない	世界のスープ旅③	性のワークショップ④	
7/21	いばしょ	理由 池田真紀	地中海のりょうし りょうり	あなたは恋愛について知っていま すか?~人との出会いを学ぶ~	
60		他田共和	9 4 7 9	7 74:19人との田去(1を子が)	
8/27	5周年 特別企画 映像のみりょくに気がついた				
61		パンジーメディア	・ディレクターズクラ	ラブ第2弾作品	
9/24		ゆめに向かってす	すもう ぼくたちは	あきらめない	
62	グループホーム	おこられたけど	世界のスープ旅④		
10/22	が期限つきに!	大すきお母さん	カスエラ~南米の		
10/22		中條絹代	なべ料理~		
63	グループホーム	ぼくにとっての	世界のスープ旅⑤		
11/26	は大切な生活の	スマホ	ムルキーヤ〜王家		
C 4	場 私たちぬきに、	安原慶	の野菜のスープ〜 世界のスープ旅⑥		
64	私たちのことを	心の声をきいて	ボルシチ〜世界	健司は健司のままでいい③	
12/24	決めないで	野山高徳	3大スープ~	ve make in a control	
65					
1/28		符別企画	「りょうりで世界一周	りが」	
67	優生保護法の	知的障害者ととも	世界のスープ旅⑦		
3 /95	優生保護伝の 裁判	に	ラグマン〜シルク		
3/25	11 744	池辺昌史	ロードのうどん~		

② ホームページ・フェイスブック・パンジーだよりについて

• 運営サイト

創思苑「自分で決める!」年間ユーザー 9,047 セッション 12,775 ページビュー 32,707 パンジーメディア 年間ユーザー 5,882 セッション 11,900 ページビュー 50,790 映画「あいむはっぴい!と叫びたい」

RDI コンサルテーション ――生きにくさを抱えた人たちへ

・フェイスブック

社会福祉法人創思苑 フォロワー605 人 ヒマラヤの青い空と白い雪がくれたもの/<英語版>Gifts from the Himaraya みんなに伝えたいこと〜ピープルファースト 25 年の歩み〜/<英語版>In our Own Worlds

・パンジーだより

NO.87 9月22日発行 NO.88 2月17日発行

③ DVD·映像制作

パンジーメディアが映像制作会社に?! なんてことになるかもしれません。

放送を始めて5年。影響は様々なところに広がっています。知的障害のある人たちの生の声を聴きたいという方々から、映像制作依頼がありました。これからも、よい番組を作って当事者の熱いメッセージを発信していきます。

- ・ 全国手をつなぐ育成会連合会(厚生労働省から受託)から、令和3年度障害者虐待防止・権利 擁護指導者養成研修において、知的障害当事者からの虐待の体験を語る映像制作依頼があっ た。
- ・ 日本司法支援センターから、厚生労働省から受託した令和3年度社会福祉推進事業(課題18:権利 擁護支援の地域連携ネットワーク強化に向けた都道府県の支援体制強化のための研修のあり方調査 研究事業)を実施するため、モデル研修会を開催のため、モデル研修のカリキュラムとして用いる インタビュー動画の制作依頼があった。
- ・ 全国の市立図書館や、大学からパンジーメディアで制作した、『あいむはっぴい!と叫びたい』 『ヒマラヤの青い空と白い雪がくれたもの』『みんなに伝えたいこと〜ピープルファースト25年の 歩み〜』などの映像作品の注文が多くあった。
- 2021年度DVD制作 『生きることの支援 知的障害者へのセクシュアリティ講座』

⑤ 講演会活動

日程	依頼先	講演内容
6月12日	自立生活支援センター「わくわく」	ガイドヘルパー養成研修
11月4日	荒川小学校	2年生対象人権学習
11月5日	荒川小学校	4年生対象人権学習
		人権を考える市民のつどい
12月3日	宝塚市	「伝えたい私たちの思い
		~地域で自分らしくくらす~」
		自立支援協議会
2月22日	東大阪市	「障害者のよりよいグループホーム
		の生活を目指して」
		障害者虐待防止研修
3月14日	東大阪市	「権利擁護を考える ~障害当事者
		を知ることからはじめる~」

2021年12月3日、宝塚市が主催する「人権を考える市民のつどい」でパンジーメディアが講演を行いました。第1部では、まず、この5年間で津久井やまゆり園についてパンジーメディアが伝えてきたことをまとめた映像を観てもらいました。そして当事者3人が事件について語ります。

中山千秋さんは、事件当時はピープルファーストジャパンの会長でした。事件について仲間とたくさん話し合い、外部に向けても当事者の思いを発信してきました。野村信久さん、有光一仁さんは、自身が入所施設のなかで、職員から虐待を受けています。3人に共通する思いは「津久井やまゆり園だけでなく、すべての入所施設をなくしてほしい」こと。たとえ、入所施設から地域移行しても、施設のなかで受けた傷は残り続ける。地域で暮らすことが当たり前の社会になって欲しいと訴えました。

第2部には、第1部の登壇者に山田浩さんを加えた当事者4人と、パンジーメディア統括の林淑美、エグゼクティブプロデューサーの小川道幸さんが登場です。この日のために再編集した「きぼうのつばさ」、およそ60分間の映像を使いながら、創思苑が30年間大切にしてきた事やパンジーメディアについて発表しました。

これまで私たちが積み重ね、目指してきたことが、パンジーメディアの取り組みに集約されています。「知的障害を持つ人への理解を深める」「知的障害を持つ人が自信を持つ」「差別や偏見のない社会をめざす」。3本柱をもとに試行錯誤してきたこの5年間を発表することは、私たちスタッフにとっても、これからの活動を進めていく上で、原点を大切に、目的を見失わない、そう思わせるよい機会となりました。

5 当事者活動支援

かえる会

今年度、かえる会では「職員面接」、「自分のお金・暮らし」、「名前の呼び方」について、改めて振り返りながら現状を確認する場を持ちました。

職員面接は、パンジーが当事者中心で活動しているという事をまず実感してもらう機会として、 新人職員を対象に行います。職員からの返答に、どう深く掘り下げて「つっこむ」のかが毎年の課 題です。なんだか丁寧に答えてはいるけれど、受け身な感じがして、積極的じゃないのでは?と、 ベテラン面接官の生田さんの目はとても鋭いです。

面接の経験がまだ浅い当事者からは、面接後の振り返りで「もっとこう言えば良かった」「難しかった」という意見があがっていました。

そして、これまでに何度もかえる会で議題にあがってきた、名前の呼び方についてです。ひとりの人間として尊重するためには、名前を名字で呼ぶことが基本です。名字が同じ人の場合は、下の名前を呼ぶのではなく、フルネームで呼ぶことにしています。しかし、それでも少しずつ呼び方をくずしていたり、下の名前だけで呼んだりする職員が出てきたため、新しい職員に伝えていくことも含めて再確認をしました。当事者からの意見として、今までと同じく、名前で呼ぶことは子供扱いをしているという声がありました。一般的に世間では、年齢が目上の人に対して下の名前だけで呼ぶことはしないはずです。ひとりの人間として尊重すること。これは当たり前のことですが、1つ1つの言動が当事者支援に現れていることに職員が気付き、改めていくことを確認しました。

また、自分の持っているお金や暮らしについても話し合いを重ねてきました。今、自分のお金がどれだけあるのかを知り、何に使うかを自分で決められるようにしたいという意見が多くありました。欲しいものを買う為に計画的にお金が使えるように、支援者に一緒に考えて欲しいこともあるけれど、「使いすぎ」や「要らないでしょ」といった言葉だけで片付けてほしくないです。自分でお金を管理して、支払う経験や、使いたい事に使えることが、当たり前にできる生活について今後も話し合いを深めていきたいと思っています。

グループホーム当事者会議

今年度も2か月に1度のペースで、グループホーム当事者会議を開催してきました。 自分たちの生活に関すること、困っていることや、そして仲間のことなど、安心できる環境を作っ ていく為に、様々な意見を出していく話し合いの場です。

最初の頃は、会議の中ではなく、当事者から職員に個別ではありましたが、「話を聞いてほしい」 という訴えがありました。グループホームに入る介護者からきつく言われた事や、決まりを言われ る事があるという内容でした。そのことについて、当事者会議にあげて話し合いをしました。

たんぽぽグループホームでは、中谷さんが夜 8 時に体操をする余暇の時間があります。その時間に電話をしていると、介護者から声を掛けられたので「ちょっと待って下さい」と返事をすると、なぜか介護者が怒ってきたという事でした。きつい態度を取られ、いじめられた気がして、時間が経ってもずっと心に残っていると、中谷さんは話してくれました。

今回のことは、介護者が、当事者にスケジュール通りに行動してもらわなくてはならない、とい う介護者側の都合で考えてしまっていた事が原因なのではないかと考えました。

当事者が、自分から職員や介護者に困っていることなど気持ちを伝えるのはとても難しい事だと 思います。これを言ったらもっときつく言われるかも知れない、と自分たちの暮らしに関わること だからこそ、要望を言いにくいことが必ずあるはずです。支援者は、そのことを理解し考える必要 があると思います。

そして、何度も会議を重ねていく中で、我慢をせずに自分の思いを伝えようと、当事者から声があがっていきました。自分ひとりで抱え込まずに、一緒に考えてくれる仲間がいる事により、応援してもらいながら思いを伝える事ができるようになってきました。

職員が想像する思いとは別に、当事者には当事者の思いがある。これからもその思いや声に耳を 傾け、自分たちの暮らしについて一緒に考えていきたいと思います。

ピープルファースト活動

兵庫県で2年ぶりにピープルファースト大会が開催されました。実行委員やジャパン事務局として積極的に運営に関わりました。コロナ感染予防のため、オンラインのみの開催となり、パンジーメディアとしては機材協力も含めて運営での重要な役割を担いました。ただ、オンラインだったこともあり、当事者・支援者のなかで主体的に関われた人は一部に留まり、これまでと比較すると全体としてはあまり盛り上がらなかった様に感じます。

ピープルファースト大阪の活動としてオンラインのみで2か月に1回程度開催されたが、パンジーからは参加できませんでした。

6 部門別事業報告

クリエイティブハウス	「パンジー」			16
クリエイティブハウス	「パンジーⅡ」	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	. 18
クリエイティブハウス	「パンジーⅢ」		• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	. 20
クリエイティブハウス	「パンジーV」	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	. 22
自立生活支援センター	「わくわく」/	相談支援センタ [、]	ーわくわく	. 24
自立ホーム「つばさ」				. 26
「パンジーメディア」				. 28



	クリエイティブハウス「パンジー」
部門	GH (さくら・はやぶさ・てくてく・花吉)
各部門の	・一人ひとりが自分の役割に自信を持っている。
目指す事	・経験共有の中で、仲間意識を育んでいる。
日1日9季	・心身ともに良好で、はつらつと暮らしている。
	2021年の姿・目標
	・経験やスキルを活かし、他の人へ伝える、教える存在になっている。
自分で	・自分の気持ちが言える、仲間の気持ちを聞く支え合いがある。
決める	・誰もが役割を持ち、いきいきと活動している。
役割を	達成度
持つ	・当事者同士がお互いを助け合える環境を整えてきた。それにより、新しく通所を
	始めた人を理解しながら、当事者間でパンジーの事を伝えていく事ができてきた。
	・毎月当事者会議を開催し、全員が発言する機会を作った。否定せずに、お互いの気
	持ちを聞き合える時間を作った。
	・農作業での役割分担や、パン屋それぞれの作業の振り返りと見直しを行った。
	2021年の姿・目標
	・誰もが健康的に、充実した生活を送っている。
	・医療的なケアが行き届き、安心した生活を送っている。
地域で	・誰もがその人らしい生活を送っている。
ふつうに	達成度
くらす	・自宅やグループホームとの連携により、日常的に運動する習慣を作った。体重の
	減量に成功した当事者や、持病の数値が改善した人がいた。
	・新たに1人の職員が喀痰吸引3号資格を今年度に取得見込みである。
	・支援計画に沿いながら、日用品など充実した生活環境を整え、一日のスケジュー
	ルを見直した。
	2021年の姿・目標
	・当事者、家族、職員が支え合い、支援について一緒に考える事ができている。
	・積極性と責任を持ち、諦めない心を育てる。
	・当事者支援について、職員全体で考えることができている。
職員を	達成度
育てる	・問題が起こった際は、職員間で要因を分析し、全員が支援の改善点を考えられる
	ようミーティングで話し合った。また誠実に対応できるよう努力した。
	・チームで方針を決め、職員ひとりひとりが適切な対応が取れるよう取り組んだ。
	・日中活動やプロジェクトを通じて、当事者が外に出て活動することで、社会の認
	知や理解が深まるよう取り組んだ。

ここ数年、パンジーでは強度行動障害のある当事者の支援、地域移行を積極的に進めてきました。パンジーが当事者との関わりの中で大切にしてきた事は、経験を共有すること。作業や遊びの中に少しの変化やチャレンジを取り入れながら、1つのことに当事者と支援者が一緒に取り組むことです。

当事者が自分ひとりで出来るようになる事を目標にするのではなく、一緒に経験をする中で、楽しさや喜び、また辛さも共有することを大切にしてきました。当事者に、こうしてもらわなくてはいけないと支援者が決め付けるのではなく、お互いが心地よいと感じる関係が生まれることを目指して支援していきました。

この取り組みを始める以前は、職員の中で、当事者に変わって欲しいという視点で支援を考えていた部分があったと思います。しかし、支援を通して職員が学んだ事は、「支援者が変わる」ことでした。支援する側の、考え方を変えていくことが大事なのだと気付いたのです。 当事者ができるように訓練していくのではなくて、当事者本人に経験してもらうことで、もともと持っている潜在的な力を引き出す支援をしていく。可能性を信じることの大切さを学びました。

障害があることで、これは難しいだろうと先入観を抱いてしまう支援者は多いと思います。特に重度の障害を持つ当事者は、人との関わりを求めていないようにも思われがちです。

しかし、支援の中で当事者が人と一緒に何かをすることの楽しさに気付いた時、それまで 出来ないと思われていた事や、あまり興味を持たなかった事に積極的になる姿がありまし た。

さまざまな環境や周りの状況に合わせて、当事者が自分で問題を乗り越えていくその姿を見て、ただこれまで経験する機会がなかっただけなのだと感じました。当事者本人の力を発揮できる環境を整えることが、私たち支援者として大切なことなのだと思っています。

グループホーム:

2021年度、入所施設を退所した山口さんがパンジーへ通所を始め、グループホームへ入居しました。それまで本人が置かれていた生活環境から、地域での生活へと大きな変化があったことで、支援者への強い要求や、グループホームから飛び出してしまう等の行動が続きました。緊急的に職員体制を整える必要もあり、試行錯誤の日々は約3ヶ月ほど続きました。市町村など行政にも制度的な協力を要請しましたが、積極的な返答は得られませんでした。

この経験は、重度の障害を持つ当事者の地域生活を支えるための支援を職員それぞれが改めて考える機会となりました。当事者の気持ちや行動の理由を理解し、関係性を構築していく支援。適切な支援を行っていくことで、現在山口さんが安心して毎日を過ごせるようになってきたと手ごたえを感じています。今後も、どんなに障害が重くても地域でその人らしく暮らせる支援を目指し、地域移行の取り組みを積極的に行っていきたいと考えています。

☆17 日日	クリエイティブハウス「パンジーⅡ」
部門	GH(春宮・花園・あじさい・コスモス・あかだ・たんぽぽ・つばさ)
部門の	・一人ひとりが自分の存在・役割に自信を持っている。
目指す事	・一人ひとりの人生に寄り添いながら支援ができている。
	2021年の姿・目標
	・外出活動を充実させて地域とつながりを持つ機会を増やす。活動の中で当事者同
	士が助け合える関係をつくる。
自分で	・当事者の活動の幅が広がり、充実した生活を送っている。
決める	・自分の気持ちが言える安心感と、人の気持ちを理解する支え合いがある。
役割を	達成度
持つ	・コロナの影響もあり、施設内での活動が中心となる。お米配達は、近隣のグルー
1,1 >	プホームへウォーキングを兼ねた配達活動が当事者の役割として定着した。
	・毎週ローテーションで当事者全員が取り組むクッキングや定期的に体を動かすハ
	イキング、またニーズに合わせたリラックスなど活動の幅を広げる事ができた。
	・当事者会やきぼうのつばさの試写会を通じて、意見を言える場を持つ事ができた。
	2021年の姿・目標
	・健康的に充実した生活を送っている。
地域で	・多方面に渡る社会資源を活用し、安心した生活を送っている。
ふつう	・医療が必要な人も、安心して地域生活を送り続けている。
にくら	達成度
す	・加齢や病気に伴う、著しい身体機能の低下がみられる当事者が3名いた。訪問リ
	ハビリや通院してのリハビリの可能性を探ったが、医療機関では加齢に伴う機能
	低下に対するリハビリの実施が難しいという状況が分かった。今後、そういった
	人たちへのアプローチが大きな課題となる。
	2021年の姿・目標
	・当事者の心の内に寄り添った支援をしている。
	・諦めない、めげない、くじけない心を持った職員を育てる。
	・当事者の可能性を信じて行動できる職員を育てる。
	・当事者同士が助け合える関係作りを支援できる職員を育てる。
職員を	達成度
育てる	・日々の支援の中で当事者の立場に立った視点を持つことは、まだまだ不十分だっ
	た。
	・ミーティングでは、対処的な支援方法に視点がいきやすい為、自身の支援を振り
	返り、関わりの質を深めていけるような話し合いが必要だった。
	・当事者同士がお互いを助け合える経験ができるよう取り組んだ。日々の積み重ね
	から、当事者同士が支え合っている姿が見られるようになった。

今年度よりパンジーⅡは、はっしんきちザ・ハートと統合したことで、高齢の人、軽作業や清掃活動など活発に活動する人、様々な当事者が通うことになりました。それぞれの年齢に応じた活動の提供や支援の質を深めていくことがパンジーⅡの大きな課題でした。

菜嶋亮太さんは、これまで役割を見つける為に、軽作業等の仕事にどう取り組んでもらうのかを支援してきました。しかし、菜嶋さんは仕事をしなければならないと大きな負担を感じてしまい、安心して過ごすことができていないようでした。RDI コンサルタントの池下さんのアドバイスもあり、まずはパンジー Π が菜嶋さんにとって安心して過ごせる場所となるよう、職員と一緒に過ごす時間を大切にしました。何かをしてもらうのではなく、本人が安心して過ごせることを目指しました。そういった活動をする中で、少しずつですが、菜嶋さんに変化が見られてきました。以前は、急なパニックになり頓服薬を服用することもありましたが、今年度はその回数も大幅に少なくなりました。そして、今年度、菜嶋さんに役割ができました。それは、お米の配達です。仲間4人と一緒に隔週火曜日に、近くのグループホームに歩いてお米の配達に行きます。近くと言っても往復30分以上はかかります。一人で持てない人は、協力をして2人で持ちます。菜嶋さんは、初めはお米の入った袋を持つことを嫌がり、他のメンバーの後ろをついていくだけでした。しかし、回数を重ねるごとにお米を持ってくれるようにもなりました。

パンジーIIが安心できる場所になり、職員との信頼関係も少しずつ築けてきたのだと感じています。そして、自分の役割が自信に繋がり、意欲的に活動できるようになった菜嶋さんの姿から、スモールステップの支援の大切さを学びました。パンジーIIに通う全ての人が安心できる場所になるようこれからも支援をしていきます。

グループホーム:

田上康夫さん(64才)は、30代の頃大きな事故で脳を損傷し、12日間意識がなくなりました。その影響で、年を重ねるごとに少しずつ体を動かすことが難しくなってきています。特に、この半年間で急激に体の機能が変化してきました。何とか手すりにつかまりながら出来ていた自力での歩行も難しくなり、今は、車いすの生活になりました。

そういった体の変化に伴い、介護用ベッドを取り入れ、立位や歩行時の支援など、部屋の 環境面と介護体制を見直しました。同時に、リハビリを行うことで身体機能の向上に繋がる ようなアプローチの可能性を探りましたが、医療機関では加齢に伴う機能低下に対するリハ ビリの実施が難しいという事が分かりました。そこで、自然治癒力を高める療法を取り入れ ることにしました。その療法を受けた後の田上さんはいつもより背筋が伸び、言葉も多く出 るようになりました。自分の力で病を癒し治す自然の力を今後も大切にしたいと思います。

パンジーⅡでは、田上さんのように年を重ねるごとに体を動かすことが難しくなってきている人がいます。そういった中で、身体機能の低下が見られる人に寄り添った支援の形を確立させていくことの大切さを強く感じています。今後、大きく3つの取り組みが必要です。

- ① 本人の健康を維持するための取り組み。歩けることの大切さ。
- ② 環境面の見直し。(その人に合った環境づくり)
- ③ 医療との連携の模索。民間療法などを取り入れる。

これらを取り組みに力を入れていく事で、年齢に関係なく、グループホーム、日中活動の場で、安心して過ごせていけるようになると考えています。

部門	クリエイティブハウス「パンジーⅢ」 GH(よしだ809・もくもく208・鴻池・青空)
部門の目指す事	・日中活動を楽しんで、輝いている。・自分の生活を楽しみ、健康的に過ごせている。・仲間のことを大切に考え、助け合える関係をつくる。
	2021年の姿・目標
自分で	・当事者それぞれの役割があり自信をもって主体的に動いている。・ネイチャークラブやメディア・当事者活動が日中活動に定着している。・料理や、自分のしたいことを楽しんでいる。・食材や調理方法を検討し、健康的で安全な食事を提供できている。
決める、	達成度
持つ	・それぞれの役割に、自分から動いて取り組む当事者が増えている。・ネイチャークラブはコロナ禍のため活動ができなかったが、パンジーメディアは撮影、試写、放送と当事者の活動が定着している。・当事者の希望を聞き、グループホームや日中で調理をする機会を作った。
	・温かい料理は温かく提供することができた。調味料を無添加に変更した。
地域で ふつうに	・グループホームの生活が自分らしいものになって楽しめている。・余暇活動が、趣味や外出先が広がり充実している。・医療が必要な人も安心して生活できている。達成度
くらす	 ・生活の中でお金を自分で管理し、本人が望むことに計画的に使えるよう支援している。 ・コロナの感染予防もあり、余暇活動では外出を控えることもあった。趣味を広げる支援は十分にできなかった。 ・必要に応じて病院や訪問リハビリと連携し、安定した生活を送ることができた。
	2021年の姿・目標
職員を育てる	・当事者を尊敬できる職員を育てる。・当事者の可能性を信じて関われる職員を育てる。・かかわりの基本を大切にし、チームとして支援を継続して行えている。達成度
	・当事者の人権を考える研修への参加や話し合いの場を作り、日々の関わりに繋げていけるよう取り組んだ。 ・当事者の可能性を信じて関わる支援を、リーダーチーフが率先して実践するよう努めた。 ・チームでの取り組みを意識し、職員間で支援を共有することができた。

パンジーⅢで働く野村信久さんは、新年度が始まってすぐの頃、日中に一人で過ごしている姿が目立っていました。以前は、同じ部門の山田浩さんや、辰巳正一さんと仲良く冗談を言い合いながら楽しそうに過ごしている様子があったのですが、いつからか自分から輪に入っていくことが少なくなっていました。また、本人がイヤだと思うことがあると、日中にグループホームへ帰ってしまう時もありました。もしかすると、パンジーメディアで活躍をしている山田さんや辰己さんの姿を見て、自分が置いていかれているような、そんな気持ちになっているのかも知れないと、職員から見ていて感じることがありました。

年が明けて、野村さんに「朝の厨房が忙しいので早出出勤をして手伝って欲しい」と依頼しました。その日から、野村さんに変化がありました。少し前までは、イヤなことがあると塞ぎ込んで周りの人が近づきにくい雰囲気になる事があったのですが、徐々に野村さんの方から「こんなことがイヤだった」と周囲に相談してくれるようになりました。職員と一緒に解決方法を探すことができるようになったのです。そして、野村さん自身が自分の役割を見つけることができ、周りから頼られる存在になってきた事で、モチベーションが高まっていったのだと感じました。

野村さんの変化は、職員に「役割って何だろう」、「どんな時に当事者がイキイキしているのだろう」と、支援の中で何が大事なことかを考えるきっかけを与えてくれました。

パンジーIIIでは、職員が関わりを考える取り組みとして、写真や映像を使いながら支援をすることも大切にしています。当事者の意見を聞く支援の中で、言葉よりも写真や映像によって思わぬ言葉や気持ちを聞くことがあります。例えば、映像の中のこのシーンの〇〇さんにマンガの吹き出しを作るとしたら何と言っているのかな?とみんなで想像してみます。すると「めちゃ笑ってる」など、想像を膨らませた答えが返ってきます。みんなで発見しているような雰囲気です。それを見て自分もやってみたい、楽しい、嬉しいなどみんなが気持ちを表現して共有する機会になり、それがまた支援に繋がっていくことがあると考えています。グループホーム:

パンジーⅢのグループホームがあるマンションの自治会が2つに分かれるという出来事がありました。住人の間で新しい自治会が立ち上がり、この棟は新自治会、この棟は旧自治会といったように変わってしまったのです。困ったことは、「こちらの自治会に残ってほしい」と両方から求められることでした。地域生活の中には色々なことがありますが、こんな事が身近で起こるのかと驚きながらも、パンジーの中で話し合う時間を作りました。

今年、大阪府内のマンションのグループホームで、住人の管理組合による障害者の追い出す裁判が起こされました。わたしたちが望むことは、「すべての人が安心して暮らすことができる」ことです。旧自治会は、わたしたちの考えを聞いて「当たり前のこと、もちろんです」と言われています。パンジーは新自治会の方々とも繋がりがあり、日頃からの挨拶を大切にしています。マンション内の花壇を綺麗に整備されていて、その花を摘んでグループホームにプレゼントして頂く事もあります。当事者の皆さんも「いい匂い」と交流を喜んでいます。新・旧と自治会は現在も分かれたままですが、地域の人たちとの繋がりにはあまり関係がないと思います。私たちは、地域でお互いに協力しながら関係を大切にしていきたいです。

部門	クリエイティブハウス「パンジーV」
	生活介護 就労継続支援B型 ショートステイ
部門の目	・自分に自信をもって、安心して通えている。
指す事	・食事や運動を楽しんで、健康的に過ごせている。
1日9季	・野菜の販売や清掃などで、地域とつながりを持っている。
	2021年の姿・目標
	・自信を持っていきいきと作業などにとりくんでいる。
	・地域の人がパンジーのイベントに参加している。
自分で	・ピープルファースト運動に当事者が積極的にかかわっている。
決める、	達成度
役割を	・自分自身で作業準備をしたり、自分の担当の仕事や役割を自発的に取り組める
持つ	ようになってきた。自分の役割を担う当事者は活き活きしていた。
	・パンジーまつりは中止となり、地域の人のイベント参加は実現しなかった。
	・ピープルファースト大会はリモートでの参加だったが、関心を持ち参加した。
	次年度はPF会議にも参加していきたい希望がある。
	2021年の姿・目標
	・グループホームが開設されている。
	・ショートステイが、自立に向けたステップになっている。
地域で	・日中活動で運動や創作活動を行っている。
ふつうに	達成度
くらす	・国分寺に1件の古民家を改修してグループホームにする準備は一歩一歩進んで
	いるが、年度内の開設には至らなかった。来年度末には開設する予定。
	・毎週の半日ハイキングや1日ハイキングを継続して実施できており、少しずつ
	足腰が鍛えられてきた。
	・高松市のアートリンク事業は2年目となり、今回も展覧会に作品を展示できた。
	2021年の姿・目標
	・当事者を尊敬して関われている。
	・当事者の可能性を信じて支援している。
	・当事者や保護者との信頼関係が築けている。
職員を	達成度
育てる	・毎週のミーティングで当事者一人一人に対する関わりを継続して見直した。そ
	れを日々の支援に反映させ、会議でフィードバックすることを繰り返すこと
	で、支援を考える力が少しずつ身についてきている。
	・野菜販売や清掃の営業など、担当に関係なく、チームで取り組み、積極的に開
	拓する姿勢が定着している。

2021年度は、新たに6名の当事者が加わりました。3月には中部養護学校から卒業生3名がパンジーVへ通所を始めました。オープンから丸3年で総勢27人となり、特に就労継続支援 B型が2人から6人に増えました。

パンジーVは、生活介護と就労継続支援B型の多機能型で、仕事とハイキングやアートリンクなど活動は一緒にしています。よく見学者から「生活介護の人と就労継続の人が一緒に仕事をするんですか?」と聞かれます。福祉サービスの違いから、事業ごとに働く作業所も多いと聞きます。ですが、一緒に働くことで良いことが多くあります。例えば、それぞれが出来ることを協力し合うことで、難しい清掃の仕事にも取り組むことができるようになります。パンジーVに通う人は、過去の就労環境に疲れた人が多く、通所当初は、自信や元気を失っていることも少なくありません。しかし、仲間と一緒に働き始めると、周囲との助け合いの中で1人の負担が減り、どんどん仕事に対する自信を取り戻していきます。自信がつくと、周囲の人への気遣う気持ちも生まれます。それは仕事の時だけではなく、ハイキングでも、仲間がはぐれたり転んだりしないように、自分から困っている仲間と一緒に歩いたり、支える行動が見られるようになってきました。そして日々の活動の中で、自信を持ったメンバーは、2022年度は、当事者会議やピープルファースト運動にも積極的に参加したいという意欲も出てきました。

自信を持ち始めているメンバーですが、それぞれに悩みもあります。浅野真岳さんは普段は紳士的なのですが、自己否定感も強く、気持ちが沈んでいくと自傷行為に繋がることがあります。足の爪を10枚すべて剥がしてしまうこともありました。過去に何度もしたことがあると本人から聞きました。パンジーVの職員は、浅野さんの普段の様子と、気持ちが沈んだ時の行動のギャップに戸惑いました。臨床発達心理士の池下さんのコンサルテーションも受け、何度も支援について話し合ってきました。具体的な関わりは本人の様子を見て、声をかけ、安心して過ごせるよう支援するという、基本に立ち返ることになりました。浅野さんはパンジーに来る前年は、しんどくなると月に一度のペースでレスパイト的に1~2週間の間、精神科に入院していました。パンジーに来てからは、入院は2回だけです。その後は入院よりもパンジーに通いながら調子を取り戻したいという気持ちに変わってきています。本当に必要な時は入院してリセットすることも方法の1つだとは思いますが、できれば浅野さんの希望通り、入院せずに地域で過ごせたらと思います。これからも紆余曲折あるかも知れませんが、どんな障害があっても地域で暮らしていくことの大切さを、浅野さんと一緒にスタッフも学んでいけたらと思います。

ショートステイ:

男女合わせて18人の当事者が利用するようになりました。将来の自立に向けたステップアップと、家族のレスパイトも含めた利用です。自分でできることは自分でしながらも、リビングでみんなと一緒に過ごしたり、自室で好きなことをしたり、それぞれの過ごし方で自由に過ごしています。今後は、グループホームもできるので自立に向けた気持ちづくりも大切にしながら支援をしていきます。

部門	自立生活支援センター「わくわく」 / 相談支援センターわくわく
	GH (もくもく308・よしだ808)
部門の目	・自信を取り戻し、自分らしく、生きている。
指す事	・支援者がチャレンジ精神を持ち、当事者とともに、成長する。
	2021年の姿・目標
自分で	・同年代と同じ楽しみや生き方を選ぶことができている。
決める、	達成度
役割を	・緊急事態宣言や大阪府のコロナの情勢も考慮し利用者のニーズには出来るだけ
持つ	応えるようにした。また、ガイドを利用し数年来のニーズである旅行や、遠距離
	への派遣を行うことができた。
	2021年の姿・目標
	・様々な環境にあっても、自分の暮らしに誇りを持てている。
地域で	・支援者と信頼関係を築いて、自分の思いを伝えることが出来ている。
ふつうに	達成度
くらす	・コロナ禍ではあっても利用者のやりたいことをかなえられるように、希望やニー
, , ,	ズに応じたヘルパーを派遣した。
	・ヘルパーとの信頼関係は、人それぞれではあるが、自分の思いを伝えられない場
	合は支援担当者やわくわく職員から聞くようにした。
	2021年の姿・目標
	・支援者が当事者を尊敬した配慮、言葉遣いができるようになっている
	・事業運営が安定し、課題に適切に取り組める環境になっている
	達成度
職員を	・今年度は創思苑の研修を行うことができた。ガイドヘルパーやホームヘルパーも
育てる	その研修に参加した。虐待や身体拘束を含め言葉遣い、配慮など当事者への支援
日への	の基本とするべきことを学んでもらった。今後の活動に生かしていきたいという
	前向きな感想が多くあった。
	・居宅部門に関しては、2022年1月~2月に創思苑でのコロナクラスターを受
	け、活動が減り、事業収入の減収があった。
	・1年を通じて正しい請求を行い、請求の漏れや、コーディネートの安定は図れた。

居宅部門:

2021年度の居宅部門は、事業総計では、4,444回、19,544時間のサービスの提供を行いました。 2020年度からは派遣回数、時間は増加傾向にありますが、コロナ以前のサービスの提供数とは大きな隔たりがあります。

居宅部門では定期的に法人のフェイスブックの順番が回ってきますが、2021年度は、 アグレッシブな活動ができず、楽しい報告ができませんでした。コロナ禍での生活は知らず 知らずに、利用者や支援者に消極的な姿勢が浸透していったように感じます。

次年度の活動では当事者が充実した生活を送れるよう、まず、支援者がコロナを正しく理解し、付き合って行けるよう考え、学んでいけるよう、わくわくから情報提供を行っていきます。

年度末に開催された虐待研修は、これまでより、多くのヘルパーが参加し、学ぼうとする 姿勢が感じられました。ただし、数人のヘルパーは講師に答えを求めるだけで、自分では考 えない姿勢がみられました。今後は、ヘルパー会議や情報の発信等でヘルパーへ、法人の理 念を発信していき、質の高い当事者の立場に立ったサービスを提供できるように努めます。

相談部門:

委託相談支援として、2021年度は103名/年の新規相談、延べ3,211件/年の相談対応を行いました。障害種別は多い順に知的、精神、発達、身体となるが重複する方も多くみられます。相談内容は福祉サービスの利用に関することが全体の4割を占めていますが、今年度の特徴として権利擁護に関する支援が1割程度あり、複数の相談者の触法行為に関して警察、弁護士、裁判所等司法関係への対応をしました。また、8050問題は増加傾向にあり、昨今メディアで取り上げられるヤングケアラー問題も地域包括などからの依頼で顕在化してきています。

各種相談を受ける中で常々頭を抱えるのはショートステイや重度訪問等が不足しており、事業所一覧を総当たりするが確保に至らないことが頻繁にあります。社会資源として以前は不足していたグループホームは相当数増えてきましたが、支援スキル等質の面で未熟なところが多く、重度障害とりわけ行動障害者の受け入れ可能な事業者が見当たらない現状があります。委託相談は地域の総合窓口的な立場であることから本人や親族、行政、医療機関等から寄せられる相談件数が年々増加しています。少数の相談員では抱えきれない状況ですが、相談現場では計画相談事業所と連携をすることで相談者を引継ぎ「どんなに障害が重くても地域でそのひとらしく生きていく」環境の実現を遂行しています。

2021年度はわくわくが委託相談支援連絡会会長職を担い、自立支援協議会事務局にも参画して形骸化している自立支援協議会の活性化に積極的な提言をすることで寄与しました。

部門	自立ホーム「つばさ」
部門の	・その人にあった支援を目指しその人らしく生活を送る
目指す	・生活にイベントを盛り込み余暇や生活の充実を図る
事	・安心できる環境と支援者に安心を持てる支援を整える
	2021年の姿・目標
	・自分でやりたいこと、決めたことを実現する
自分で	・生活の中でその人にあった役割を持ち充実している
決め	達成度
る、	・コロナの影響で外出先の検討が必要になることが増え、以前のように同居のみんな
役割を	と毎月の外食に行くことができなかった。ホームパーティが中心になっているこ
持つ	とが多かった。
	・ホームで自分のしたいことを少しずつではあるが実現することができた。
	・家事や食事の用意など、自分たちの生活の中で役割を持ち協力しながら行っている
	ホームが増えてきた。
	2021年の姿・目標
	・1年通してイベントや趣味など充実させ生活を楽しめている
地域で	・医療が必要な方も、安心して生活できる環境や支援を継続させる
ふつう	達成度
にくら	・コロナ禍で、みんなで行うイベントを開催することができなかった。その為、ホー
す	ムの中での個々の趣味などを楽しめるよう支援した。
	・医療面では必要に応じて通院や嘱託医に相談することができており、今後も安心し
	て生活ができる環境を整えていく。
	・高齢の方の持病などを考慮しながら、生活を支えるためには知識を学ぶ必要があ
	る。
	2021年の姿・目標
	・理念に基づいた関わりができている
	・当事者の力を信じられる職員を育てる
	達成度
職員を	・日々の関わりについて、グループホーム介護者会議などの場で、当事者の気持ちを
育てる	考えた安心できる支援を話し合う必要があった。
	・理念に基づいた支援が浸透するためにも、定期的に勉強会などを開催し支援の見直 、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、
	しをしていきたい。
	・当事者の力を信じるためにも、当事者の気持ちを大事にすることと、ひとりひとりの当事者のことをもっと知る必要があった。

今年度もコロナウィルスが生活に影響することが多く、特に持病などの疾患がある当事者の中には不安に感じる人もいました。日常の中で自宅ではマスクをしないことが一般的なこともあり、支援者は感染対策の為にマスク着用を継続していますが、当事者は自分たちの家ではマスクを外して生活を送って欲しいと考えてきました。マスクをしている、していないで、口元の表情で気持ちを伝えたり汲み取ったりできることもあると考え、外出時以外はノーマスクで生活を送れるように配慮してきました。

また、去年同様に楽しみである外出や旅行へも行きにくい状況が続き、そのことでストレスが溜まってしまう人もいました。生活の充実を図ることを考えて、趣味を充実できるよう支援をしました。そのことは当事者にとって一部のストレス軽減にはなったかも知れませんが、元の日常に戻れることを強く望む人が多くいることを感じました。当事者、支援者共に今の状況を乗り越えていくために、必要な感染対策を行いながらも、不安を感じている当事者と社会状況を見極めながら、1人ひとりの暮らしをどう築いていくのか、どんな支援が必要なのかを考えながら取り組みをしてきました。

コスモスグループホームで暮らす河野明裕さんは、週末に電車に乗って外出することが大好きな人です。河野さんは、今も電車に乗ることを控えることがあり、満たされない気持ちと葛藤しながら生活を送っています。河野さん自身、コロナに感染することに不安を感じて自粛を余儀なくされている状況と、そんな中で満たされない気持ちが爆発しそうになることをどうしていけばいいのか。河野さんと支援者が一緒に考えながら、どのように前向きに考えるか、安心した生活を送ることができるのかを模索した1年でした。河野さんと、今できる楽しみ方を一緒に考えてきました。コロナの感染者が少なくなっている時には、人が少ない場所への旅行など工夫をしてきました。

このことは、今の社会情勢に関わらず、普段から世話人との話の中で「今できる支援」「少し先の支援」について考えていく上で、支援者として試される経験だったと思います。そして、今回のことで河野さんの気持ちや、生活を見直すことにも繋がっていきました。ひとりひとりの生活の質や、心の安心を考えられる支援がいかに大切なことかを改めて感じました。

次年度はグループホーム内だけでなく、感染対策に考慮しながらも、外に出て活動すること。趣味やイベントなど当事者がその人らしく活動的に生活できる支援に力を入れていきたいと考えています。今の時代だからこそ、気持ちがリフレッシュできるように余暇の充実の必要性を感じています。散歩や買い物は今後とも継続していきたいです。楽しい生活の実現や生活の質を当事者と一緒に考えて試行錯誤することも良い経験であると考え、様々なチャレンジをしていきたいと思っています。

部門	パンジーメディア			
部門の目指す事	 ・当事者が役割を持ち、メディアの活動に自信を持って取り組めている。 ・『きぼうのつばさ』の英語版放送を始めている。 ・上映会、本の出版、講演会など積極的に活動をしている。 ・障害者の権利条約の審議について、自分たちのことばで発信している。 ・『青い空と白い雪がくれたもの』の映画を広める。 			
	2021年の姿・目標			
	・ディレクターズクラブが充実し、自分たちの作品を発表している。			
	・キャスターやコメンテーターなど、役割を持った当事者が増えている。			
	・障害者の権利について自分のことばで語れるようになっている。			
	達成度			
	・ディレクターズクラブを定期的に開催し、9月24日UPの第61回きぼうのつば			
自分で	さで、ディレクターズクラブ第2弾作品「ゆめに向かってすすもう」~ぼくたち			
決める、	はあきらめない~をアップすることができた。テーマは「私たちの願いは、どん			
役割を	な障害をもっていても自分らしく生きる」「あきらめない。それが実現するま -			
持つ	で・・・」。 ・9月から「パンジーの眼」でグループホーム再編問題などをとりあげる際、当事			
	者がレポーターや解説員として番組に登場をすることが多くなった。またそれに			
	伴い、厚労省などで発言をする機会も多くなり、特に辰己さんと山田さんがどん			
	どん自信をつけ始めた。			
	・「出張上映会」はコロナの感染拡大のため、開催できなかった。次年度は、各地で			
	の上映会を計画している。			
	2021年の姿・目標			
	・どんなに障害が重くても地域で暮らせることを発信している。			
	・当事者の生き生きとした生活を発信している			
	・『きぼうのつばさ』を見ている人が増えている。			
地域で	・『青い空と白い雪がくれたもの』が広まっている。			
ふつうに				
くらす	達成度			
	・強度行動障害を持つ人の入所施設からの地域移行とその後のくらしや、グループ			
	ホームでくらすのは無理だと言われていた行動障害のある人が、創思苑のグルー			
	プホームで暮らすまでなどを、ドキュメント映像として作成している。講演や研			
	修だけでなく、大学や図書館でも活用されるようになった。 ・きぼうのつばさとしての発信や DVD 等の販売だけでなく、育成会や厚労省から映			
	- ではノツブは6としてツボロトガガ寺ツ販光にけては1、月瓜云で序力省かり吹			

像作成の依頼があった。 『青い空と白い雪がくれたもの』の映画館での上映も、コロナの感染拡大の影響で 進んでいない。次年度は、各地での上映会を計画している。 2021年の姿・目標 ・メディア担当の職員は、よりよい番組が作れるようになっている。 ・メディアの活動を通じて、より深く当事者を理解する。 ・全職員が何らかのメディアの活動に参加している。 達成度 ・内外の研修やグループホームの法改正に反対する集会など、様々な場面を映像で 職員を 記録する機会が多くなった。その映像を参加できなかった職員も見ることができ 育てる るようになったので、情報の共有や職員の質の向上に役立っている。 ・「私の歴史」みるだけでも当事者を理解するのに役立つが、一緒に「私の歴史」を 作るのが、当事者の人生に深く共感をすることにつながっている。特に最近は言 葉で語るのが苦手な人をとりあげる機会が多くなった。 ・本人だけでなく両親や職員からも聞き取り、小さいころからの写真を見せてもら い、番組として完成した時、当事者より感激している職員が多くなった。人間と して、一回り成長したのだと思う。

一年を振り返って(エピソード・そこから学んだこと)

- 当事者が自信を持って発言ができるようになった。
 今年度は、グループホームの法改正に反対する集会や優生保護法の裁判などを番組で取り上げる機会が多かった。その際、当事者がレポーターや解説員を務める機会があった。それがきっかけとなり、外部の集会での発言なども自信をもってできるようになった。
 職員が「できない」と思い込むのでなく、「できるように支援する」ことの大切さを再確認した。
- ・ 障害の重い人の「私も歴史」や、当事者が企画・原案・出演のドラマを作れるようになった。パンジーメディアの活動で役割を持った当事者が増えている。今後も増えていきそうだ。
- ・ 大学や図書館からのDVDの購入が多くなった。また、育成会や厚労省から映像作成の依頼もあった。反面、それは知的障害当事者の思いなどをあまり聞いたことがない現状を反映していることだと思う。これからも、当事者の思いを発信し続けたい。